

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針
(対象事業：北九州広域都市計画道路戸畑枝光線他街路事業)

【対応方針】

事業継続

【対応方針の理由】

本市では、産業構造の高度化や物流機能の充実・強化を図るため、北九州空港やひびきコンテナターミナルの整備など、様々な物流拠点の整備に取り組んでいる。安定的な物流・人流を確保・活性化するためには、これらの物流拠点や中心市街地を結び、本州や九州各地域との連携を促進する主要幹線道路の整備を進め、広域道路ネットワークの形成を推進する必要がある。

また、大規模災害発生直後において、人員や物資等の緊急輸送活動を確実かつ円滑に実施するためには緊急輸送道路を早急に整備する必要がある。

北九州広域都市計画道路戸畑枝光線は、北九州都市高速道路や若戸トンネル等と一体となることで、我が国のものづくりを牽引する企業が集積する響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成するもので、戸畑区大字戸畑を起点とし、八幡東区東田五丁目を終点とする延長約4km、4車線、代表幅員 18mの自動車専用道路である。

これまで、戸畑枝光線1期および汐井町牧山海岸線は、平成 23 年度から事業着手し、高架橋やアンダーパスなどの大型構造物の大部分が完成してきている。事業の進捗に合わせてきた詳細な土質調査に基づく地盤改良の増工や、近接する鉄道や建物への対策等により、事業費及び事業期間の見直しが必要となった。

また、平成 26 年度に着手した2期は、今後の本格的な工事着手に向けて、詳細な設計や土質調査を行い、1期の状況を加味しながら事業内容を再検討したところ、大幅な事業費及び事業期間の見直しが必要となった。

これらの見直しにより、全体事業費は 478 億円から 732 億円に 254 億円の増額、事業完了年度は令和 8 年度から令和 15 年度に 7 年延伸となる計画である。

本事業は、前述のとおり高い整備効果が期待できるほか、周辺地域の渋滞緩和、交通安全の確保等、生活環境の向上にも寄与することから、公共事業調整会議(内部評価)における対応方針(案)として『事業継続』を決定した。

続いて実施した「公共事業評価に関する検討会議(外部有識者会議)では、変更計画のとおり事業を継続することについて、全ての構成員から「異論なし」との意見を受け、併せて今後の事業推進にあたっての留意点が示された。

この結果を受けて募集した市民意見では、事業効果発現の期待や事業費の縮減について今後の参考となる意見が提出された。なお、計画の修正を要する意見は提出されなかった。

以上のことから、変更計画どおり事業を継続することとし、先の留意点及び市民意見を踏まえて、更なるコスト縮減の検討を継続しながら事業推進に努める。